食育健康だより

トベラこども園　令和４年８月発行

あちこち動き回る子どもを見ていると、元気をもらえますね。しかし、子どもは運動能力や注意力が未熟なのに、好奇心はおう盛。転んだり危険なことをしたりして、けがをすることもたくさんあります。日常生活の中でよく起こる子どものけがに、焦らずに対処できるよう、家庭でできる応急処置の方法を紹介します。

擦り傷・切り傷

手当ての手順

1. 傷口と傷口の周囲の汚れを、水道水でしっかりと洗って落とす。
2. 消毒液を傷口に垂らして、出てきた泡を減菌ガーゼで押さえるように優しくふき取る。
3. 傷より少し大きく切ったラップを傷にかぶせて、テープや大きめのばんそうこうで留める。（ラップ療法）。

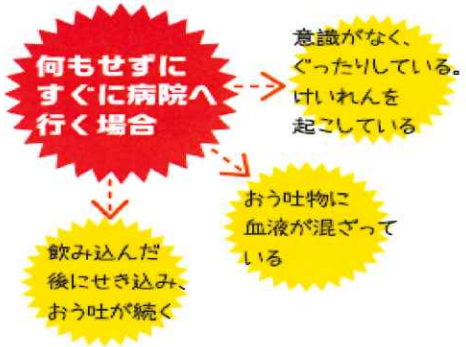
ラップをはるとなぜいいの？

・皮膚の代わりになって傷口を保護し、乾燥を防ぐ。

・傷口に張り付かないので、取り替えるときに再生した皮膚がはがれず、痛みもない。

誤飲

対処の種類



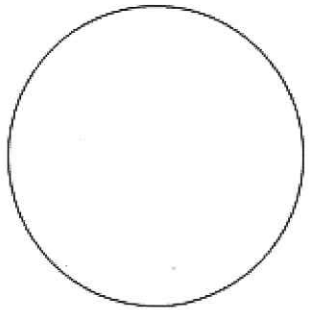
様子によっては、救急車を呼んで病院へ。受診するときには、いつ、何を、どのくらいの量飲んだのかを伝え、誤飲した物の残りや容器、容器の入っていた箱などを持っていきます。

【液体などを飲んだ場合】

顔が低くなるようにうつぶせにして抱える。肩甲骨の間を平手で 4～5 回強くたたく。※口の中に指を入れて異物を探さないようにする。

【固体が詰まっている場合】

顔が低くなるようにうつぶせにして抱え、大きく口を開かせる。舌の付け根を指で押して吐かせる。



この円（直径 39mm）の中を通る物は子どもの口に入ります。子どもの口の大きさは 3 歳児で直径約 4cm。これより小さいものは子どもの口にすっぽり入り、窒息の原因になる危険があります。直径 4cm 未満のものは子どもの周りに置かないようにしましょう。

参考文献　特集：いざというときに……　家庭でできる応急処置
(https://www.oyakocan.jp/tokushu/201503.html)